

ISE
JINGU
Explanation

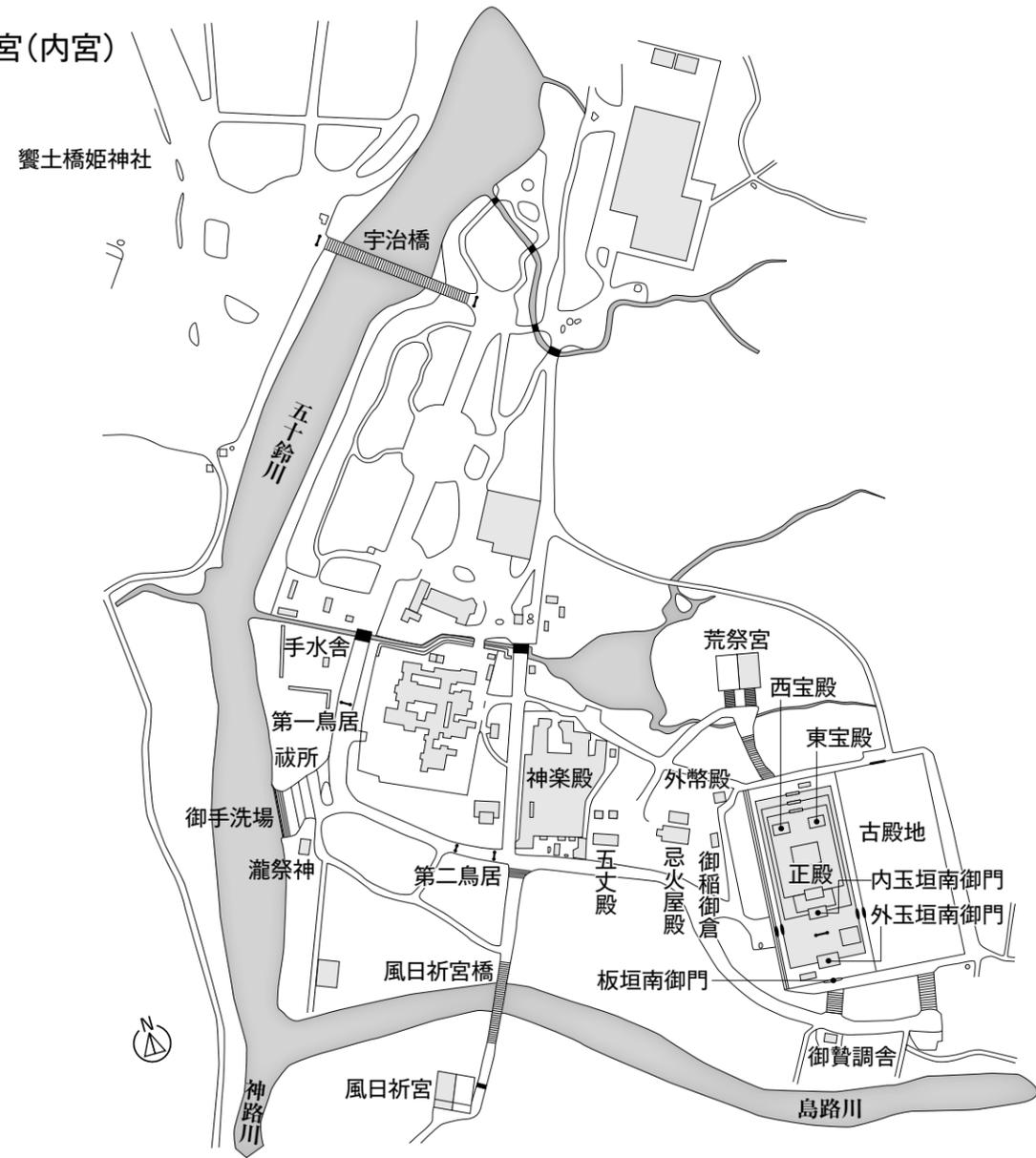
解説 音羽悟
text by Satoru Otowa

解説編

伊勢神宮

新潮社

皇大神宮(内宮)



豊受大神宮(外宮)



地図：atelierPLAN



神事編

写真キャプション：藤田庄市 翻訳：岩橋克二



平成18年(2006)10月17日
あらまつりのみや ないくう かんなめさい
荒祭宮 内宮 神嘗祭
神嘗祭に奉納され、玉垣に懸けられた初穂の束。懸 税と呼ぶ

17 October 2006
At Aramatsurino-miya in Naiku on the occasion of Kanname-sai
Sheaves of rice plants are hung on the fence around the inner sanctuary.
They are called Kakechikara. "Chikara" means tax.



平成24年(2012)9月14日
かみの みいのじんじゃ
外宮 上御井神社
日別朝夕大御饌祭
湧水に自分の影をうつさぬように
長い柄のひしゃくで汲む

14 September 2012
Higotoasayu-omike-sai at Kaminomiino-jinja in Geku
Priests draw spring water with a long dipper so carefully that their silhouettes do not reflect on water.

●上御井神社(御料水奉汲)
わたらい かわさき のがさだ
度会(河崎)延貞が元禄13年(1700)に纏めた『神境紀談』に、「外宮正殿より 坤 方藤岡山の麓に上御井神社があり」と記される。この御井は忍穂井ともいうが、井戸水は藤岡山の伏流水と考えられる。慶安2年(1649)に荒木田(堤)盛徴が著した『神風小名寄』によると、藤岡山は外宮の宮山・高倉山の内の小名で、他に音無山があり、さらに西の峰は風音山・高佐山に連なり、外宮御前の宮山は、南側から西側一帯は山の峰が連なり続いている。
延暦23年(804)撰述の『止由気宮儀式帳』御炊物忌父(神饌を司る神官)の条に御井の存在が記されているので、太古からこの場所で御料水を奉汲していたことが理解できる。藤岡山の麓の下雫をもって上御井神社の水が蓄えられているが、この水を汲んで日別朝夕大御饌祭において、昔も今も変わらず連綿と御水が供進されている。



平成24年(2012)9月14日
外宮 忌火屋殿
日別朝夕大御饌祭
調理の初めはまず火鑪具によって
忌火を起こす。木と木の摩擦によ
って火種をつくり枯葉に点火する



平成24年(2012)9月14日
いみびやでん
外宮 忌火屋殿
日別朝夕大御饌祭
調理のために起こされた忌火

14 September 2012
At Imibiya-den in Geku on the occasion of Higotoasayu-omike-sai
A sacred fire was started to prepare offerings to deities.

●忌火

忌火とは、「斎み清めたる火」の義で、延暦23年(804)に撰進された『皇太神宮儀式帳』に「禰宜に任さるる日より忌火の飯食ひ忌り慎しみ(原漢文)」とあり、建久3年(1192)に内宮権禰宜荒木田(井面)忠仲が編集した『皇太神宮年中行事』にも「忌火潔斎之次第」とある。太古より神宮祠官の祭祀厳修の奉仕心得となっていた。

14 September 2012
Higotoasayu-omike-sai at Imibiya-den in Geku
Preparing food offerings begins with starting a sacred fire with an ancient tool.

●火鑪

上代における発火は火をウツ、火をキルの二様で、清火は火鑪にあたる。平安末期の九条兼実の『玉葉』に「神宮の習は火打を用ひず、火切を用ふ(原漢文)」と記し、また大江匡房の『江家次第』「忌火御飯」の註にも「忌火神態に至るごとに火を鑪り炊爨す、いふところは忌火なり(原漢文)」とある。江戸後期の内宮禰宜荒木田(蘭田)守良の『神宮典略』には「火切、火ヲ淨メ鑪リ出スヲ云、俗ニ清火ト云シガ如シ、二月十二日火切御物祝詞ニ火切御物供進詔刀 祝 長申」と見える。



平成27年(2015)2月27日
外宮
日別朝夕大御饌祭のために忌火屋殿に向かう神職。最後尾の神職が手にしているのは御饌殿扉の鑰(鍵)

27 February 2015
Geku
Priests are proceeding to the Imibiya-den for the ritual to prepare sacred food offerings. The priest at the tail of the procession is holding the key of Mike-den where deities gather for meals.



平成24年(2012)11月15日
外宮 忌火屋殿
御飯を蒸す竈から上がる煙

15 November 2012
Imibiya-den in Geku
Smoke is rising from a hut in which rice offering is cooked.



平成27年(2015)2月27日
外宮 忌火屋殿前
御饌殿へ向かう御饌をおさめた辛櫃
27 February 2015
In front of Imibiya-den in Geku
A wooden chest of food offerings is carried to Mike-den.

恒例祭及び式

古来、日本の国は「豊葦原の瑞穂の国」と呼ばれ、水に恵まれ稲が立派に稔る国を意味する。日本人にとって、米は単なる食料としてだけではなく、神と人とを結ぶ供え物でもある。神宮では稲が芽吹き、そして稔るという稲作の周期と共に、年間1500回に及ぶお祭りが行われ、その中で大御神のご神徳をたたえ、ご神恩に感謝し、「国安かれ、民安かれ」と、国家の隆昌と国民の幸せをお祈りしている。



平成21年(2009)9月1日
ぬいぼさい
神宮神田 抜穂祭の日
1 September 2009
The sacred rice field
On the day of a ritual to pull out ears of rice



平成21年(2009)2月17日
内宮から
祈年祭の朝、いっとき雪が激しく舞った

17 February 2009
A view from Naiku
In the morning of Kinen-sai, a ritual to pray for good harvest of the year, it snowed heavily for a time.



平成21年(2009)2月17日
みしのの みくら
内宮 御稲御倉
祈年祭の朝。御稲御倉神がおまつりされる。神宮神田から収穫された御稲は、秋に御稲御倉に納められる

17 February 2009
Mishineno-mikura in Naiku
In the morning of Kinen-sai, a ritual is performed at Mishineno-mikura, a shrine to store rice. Rice harvested in the sacred rice field is stored here.

●御稲御倉

『皇太神宮儀式帳』によれば、神田の稲を抜穂して御稲御倉に納め置

き、神事に供してきたことがわかる。内宮では、^{かんみめさい}神嘗祭に270束、12月の^{つきなみさい}月次祭と翌年6月の月次祭とに各々230束、その間に正月1日の^{びやくまん}白散(元日に服用する散薬)^{りょう}料、同7日料、同15日料、3月3日料、5月5日料として計142束6把、総計872束6把を御倉に蔵しており、その都度奉下していた。

『皇太神宮年中行事』正月6日条によれば、「御稻御倉」の名称で記載されているので、古くからこの名で呼ばれていたことがわかる。また同9月1日条には、御稻御倉で絹の御衣(この御衣は17日の神嘗祭祭使参向の時、官幣の錦・綾と共に御正殿に奉納される)を母良(神に仕える童女・童男の物忌を介添えする女性)並びに織女一人に織らしめた記事が見られる。この時は既に9日の御節供料の御稲を下用した後であり、倉は空になっていたから奉織も可能であった。荒木田(藤波)氏経の日記である『氏経卿神事記』文正元年(1466)12月16日条からも御稻御倉を「御機殿」と呼称していたことがわかる。

また内宮玉串大内人(内人とは、古代では禰宜の次の位の職掌で、大内人と小内人の職があった。宿直や祭祀の器物、酒食などを管理する役目を担った)家の記録『宇治土公家引付』寛永4年(1627)11月29日条によれば、切り取った心御柱(両宮の正殿の床下中央に建てられた神聖な柱)に荒薦を巻き付けて御機殿(御稻御倉)に安置したことが記されており、木本祭が終わった後、今日も心御柱は遷御前まで御稻御倉に奉安しておくが、これが伝統神事であることが文献からも窺えるのである。

●倉四字

『皇太神宮儀式帳』に「御倉一院 倉四字 長各一丈八尺 広各一丈五尺 高八尺 臥堅魚木各四枚 玉垣廻長三十八丈」とあり、同書に「西四御倉」とあることから、平安時代の中頃までは大宮院(御垣内)の西方の一郭に、四棟の倉が「院」をなして建てられていたのであろう。その後大宮院の中に建てられることになり、その結果、式年の御造替の殿舎の内に数えられるに至った。平安中期から室町中期までは、外玉垣の内の南方で、東の宮地の時は東方に西面して、西の宮地の時は西方に東面して南北に並列して建てられていたと考えられる。

この四字の御倉の配列は平安末期の平信範の日記『兵範記』の記載に従うと、御稻御倉、調御倉、御塩御倉、舗設御倉の順であったようで、調御倉は公文書や公印、さらに御鑑・御鎖等を納める倉、御塩御倉は文字通りお祭りに使用する塩を保管する倉、舗設御倉は祭典用具を納める倉であった。調御倉よりも御稻御倉は常に上位にあり、一の倉として扱われていたことがわかる。他の三字は時代によって廃損、焼失、再建の興亡を繰り返しても、御稻御倉だけはその用途の重要性から速やかに再建されていたのであった。

また中世の古文書によれば、御稻御倉は正遷宮(近代に至るまでは式

年遷宮をこう称した)において新調された御装束神宝を仮納めする用途にも充てられた。^{とくごうぎょうじ}読合行事(朝廷から送られてきた金銅飾金物や御装束神宝が古法通りの仕様・寸尺で調製されているかを一品宛読み上げて採寸・確認する儀式)で点検の済んだ品々が御稻御倉と外幣殿に振り分けられて仮置きされたことも理解できる。

●御稻御倉の構造

『皇太神宮儀式帳』によると、かつてこの「倉四字」は、屋根は萱葺で東柱を有する入母屋造、板を組んで壁とした板倉造の形式であった。これらの四字は戦国時代の末頃までには廃絶し、第41回の天正13年(1585)の正遷宮の時に御稻御倉一字のみが再興された。今日も御倉一字だけが式年遷宮の度に再建される。金銅飾金物については、寛文13年(1673)の『内宮遷宮奉飾御金物図説』によると「御機殿」の扉・桁・千木・堅魚木・葦覆・障泥板等には金銅飾金物が飾られている(これらの飾金物は中世以前の記録にはない)。『元禄調進式目』には、御稻御倉として「御鎖一具鐵、御鑑一勾」とあり、現在も寛文の図とほぼ同様の金銅飾金物を奉飾している。再興されてからの位置は正宮の西北方にあつて東面し、形式は普通の壁柱のある神明造となり、20年に一度の式年造替を受けつつ今日に及んでいる。

祈年祭 Kinen-sai

「としごいのまつり」とも言い、天皇陛下が春の耕作始めの時期にあたり、五穀の豊穰をお祈りされるのに際し、神宮では天照大御神をはじめとする神々にお食事をお供えする大御饌の儀が行われ、続いて勅使が天皇陛下の幣帛を奉る奉幣の儀が行われる。

- | | | |
|----|--|--|
| 19 |  | 平成21年(2009)2月17日
内宮神苑
祈年祭の朝。紅梅に雪が降った |
| 20 |  | 平成21年(2009)2月17日
内宮 表参道第二鳥居
祈年祭における幣帛および勅使のお祓い |

17 February 2009
The second torii gate in the approach to the inner sanctuary of Naiku
Imperial envoy and cloth offerings from Emperor are purified for Kinen-sai.

- | | | |
|----|---|---|
| 22 |  | 平成21年(2009)2月17日
内宮 荒祭宮
祈年祭

17 February 2009
Aramatsurino-miya in Naiku
Kinen-sai, a ritual to pray for good harvest of the year |
|----|---|---|

●平安初期の祈年祭奉幣の儀

平安初期における祈年祭は、毎年2月4日にまず神祇官(令制で神社を管理する役所)で執行される祭祀で、その後、中臣氏(主に祭祀の祝詞を奏上)が使者となって神宮に幣帛(天皇より下された神前への供物・布帛<織物>類)が奉献されていた。『皇太神宮儀式帳』によれば、その式日は神祇官での班幣儀(幣帛を各神社に配る儀式)に遅れること8日、2月12日であった。奉献される幣帛は、官幣大社の幣料と同量で、その他両宮に各1疋馬が加えられたが、神嘗祭や臨時の奉幣のように内蔵寮(令制で御料を司る役所)から幣帛が供進されることはなかった。

その詳細な式次第を『皇太神宮儀式帳』に見てみると、中臣氏と宮司が外院(板垣御門外)にまず参入した。その後、禰宜・内人が同所に集合し、宇治大内人(内宮の内人の内、上席者)により太玉串が宮司と禰宜に分配された。次に禰宜・宇治大内人が左右に並び先頭となり、宮司・幣帛奉持内人・御馬・御馬飼内人・幣帛使の順で内院に参入した。

それから宮司が座より進んで祝詞を奏上し、奏上後本座に復すと、宇治大内人が宮司奉持の太玉串2枝を受け取った。そして禰宜が大物忌父(神に仕える童女・童男の物忌を介添えする男性)に命じ、宇治大内人奉持の宮司玉串を第三御門(現在の内玉垣南御門。「玉串御門」ともいう)の左方に進置させた。次に禰宜の奉持する太玉串を宮守物忌父に命じて同御門の右方に置かせた。さらに宇治大内人自身の玉串も右と同様の次第で地祭物忌父をして、同御門の左方に進められた。この宮司・禰宜・宇治大内人の玉串を第三御門に進置する儀を玉串行事と称し、現行祭祀の祖法が見られる。これは神嘗祭・月次祭の奉幣の儀においても行われたが、宇治大内人が最後に自ら玉串を奉持して、第三御門に進めた点が異なる。

この玉串行事の後、拜礼が行われ、内宮正殿の儀は終了するのであるが、式の大筋の流れは今日も踏襲されている。

- | | | |
|----|---|---|
| 23 |  | 平成19年(2007)4月3日
宇治橋近く
芽吹き前ゆえに常緑のヤドリギが目立つ

3 April 2007
Near Ujibashi Bridge
Evergreen mistletoe is outstanding among trees yet to sprout. |
|----|---|---|

- | | | |
|----|--|--|
| 25 |  | 平成27年(2015)3月16日
外宮 東御敷地(古殿地)
早春の雨もよいの朝、楠の大樹が存在感を際立たせる |
| 26 |  | 平成24年(2012)3月27日
宇治橋
春の霜。朝日がでると瞬く間に消えていった

27 March 2012
Ujibashi Bridge
When the spring sun rose, frost disappeared in the blink of an eye. |

- | | | |
|----|---|--|
| 27 |  | 平成20年(2008)3月21日
内宮にて
春の雲の流れのなかに太陽が浮か出る

21 March 2008
In Naiku
The sun is showing its shape through the clouds of spring. |
|----|---|--|

み そのさい
御園祭 Misono-sai

神宮のお祭りにお供えする御料の野菜・果物の豊かな稔りと農作業に携わる人々の安全を祈念し、併せて全国の農作物の成育と農業の発展を祈る。



平成19年(2007)3月21日
御園
御園祭における作長の拝礼
春耕がはじまる

21 March 2007
The sacred farm where vegetables are grown to be offered to deities
Farmer representative offers a prayer in the field. Spring cultivation begins.



平成19年(2007)3月21日
内宮にて
芽吹き直前の枝が朝の陽光に光る

21 March 2007
In Naiku
Branches are about to sprout and shining under the morning light.



平成20年(2008)3月21日
五十鈴川上流(神路川)
五十鈴川上流の宮域林はヤブツバキが多く、群生地がある
落ちた花が流れにのり、川中の岩にとどまっていた

21 March 2008
The upper Isuzu River (the Kamiji River)
Many Camellia japonica trees are found in the sacred forest of Ise Jingu.
A flower fell from a tree was resting on a rock in the river.

じんむ てんのうさいようはい
神武天皇祭遙拝 Jinmutenno-sai-yohai

宮中の皇霊殿において、神武天皇祭が執り行われるにつき、神宮においても遙拝式を行う。



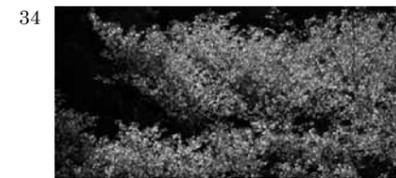
平成19年(2007)4月3日
内宮 祓所
神武天皇祭の日

3 April 2007
The site for purification rituals in Naiku
On the day of Jinmutenno-sai, the ritual to commemorate the demise of Emperor Jinmu



平成19年(2007)4月3日
内宮 祓所
神武天皇祭
遙拝をする神職と浅沓

3 April 2007
The site for purification rituals in Naiku
Ritual shoes are lined behind priests who are worshipping Emperor Jinmu from afar.



平成20年(2008)4月5日
五十鈴川上流(神路川)の宮域林
照葉樹林のなかのヤマザクラはひとときわ目をひく

5 April 2008
The sacred forest along the upper Isuzu River (the Kamiji River)
Wild cherry blossoms draws attention especially in a broad-leaved forest.

しん でん げ しゅ さい
神田下種祭 Shinden-geshu-sai

神嘗祭をはじめ、諸祭典にお供えする御料米の忌種を神田に蒔く祭り。



平成20年(2008)4月4日
神宮神田の畔
スミレやスギナに朝露が光る
神田下種祭の日に

4 April 2008
A sidewalk of the sacred rice field
Violets and equisetums are shining with morning dew on the day of the ritual to seed rice.



平成18年(2006)4月4日
神宮神田
神田下種祭。籾(稲種)がまかれた
籾床が陽光に反射する

4 April 2006
The sacred rice field
Rice seeding ritual. Seedbed with rice seeds reflects sunshine.



平成18年(2006)4月4日
神宮神田
神田下種祭。忌鍛山から頭に真佐
岐の蔓を髪飾りにして出てくる

4 April 2006
At the sacred rice field on the occasion of the rice seeding ritual
Farmers descend from Mt. Yukuwa wearing vines of masaki tree.



平成19年(2007)4月4日
忌鍛山(神宮神田に隣接)
神田下種祭に先立って忌鍛山で
神事が行われる

4 April 2007
Mt. Yukuwa (adjacent to the sacred rice field)
Prior to rice seeding, a ritual is performed in the mountain.



平成20年(2008)4月4日
神宮神田 神田下種祭
祭場で拝礼する神職

4 April 2008
At the sacred rice field on the occasion of the rice seeding ritual
Priests are offering a bow in the ritual site.



平成18年(2006)4月4日
神宮神田
神田下種祭における作長。手にした
鍬の柄は、忌鍛山での神事で伐
採したイチイガシ

4 April 2006
At the sacred rice field on the occasion of the rice seeding ritual
Chief farmer is serving the ritual.
The handle of the hoe is made from oak harvested during the ritual in Mt. Yukuwa.



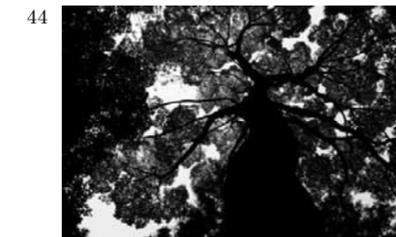
平成25年(2013)4月2日
神宮神田
神田下種祭
櫃には忌種が入っている

2 April 2013
At the sacred rice field on the occasion of the rice seeding ritual
In the wooden container there are sacred seeds of rice.



平成19年(2007)4月4日
神宮神田
神田下種祭
忌種を籾床に播く

4 April 2007
At the sacred rice field on the occasion of the rice seeding ritual
Sacred seeds of rice are sown on seedbeds.



平成21年(2009)4月15日
鼓ヶ岳山中 クスの大木
春は落葉と新緑が同時の季節

15 April 2009
Mt. Tsuzumigatake
A huge camphor tree. Spring, the season of fallen leaves and new life.

たいまようざいきりはじめさい
大麻用材伐始祭 Taima-yozai-kirihajime-sai
 お神札「大麻」のご神体となるスギ材を神宮林から切り出す祭。

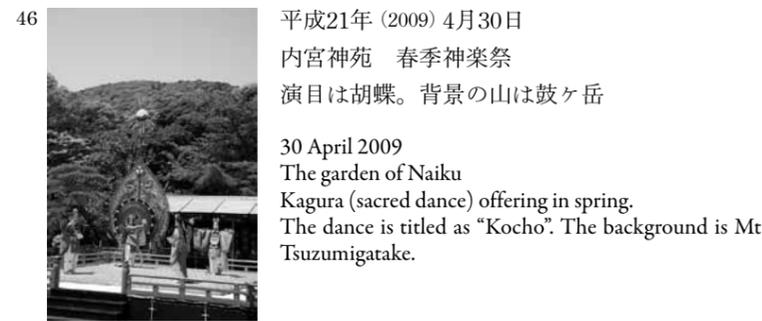


45 平成26年(2014)4月16日
 丸山祭場
 大麻用材伐始祭
 神宮大麻(神札)に用いるスギ材の切り出し作業の無事を願う
 16 April 2014
 Maruyama ritual site
 The ritual of harvesting woods for Jingu-taima (the talisman of Ise Jingu)
 This is to pray for safety of harvesting cedar trees used for Jingu-taima.



45 平成26年(2014)4月16日
 丸山祭場
 大麻用材伐始祭で地中に奉納される忌物
 16 April 2014
 Maruyama ritual site
 An offering buried underground on the occasion of the ritual of harvesting woods for Jingu-taima.

しゅんきかぐらさい
春季神楽祭 Shunki-kagura-sai
 神恩に感謝を捧げ、国民の平和を祈って行われる行事。初日には外宮が午前8時30分、内宮が午前10時からそれぞれの神楽殿において御神楽が奉奏され、午前11時と午後2時には、内宮神苑の特設舞台で舞楽が公開される。

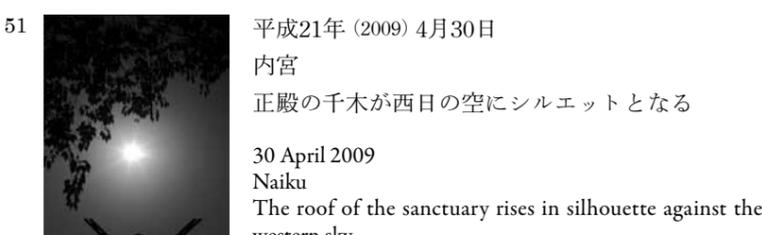
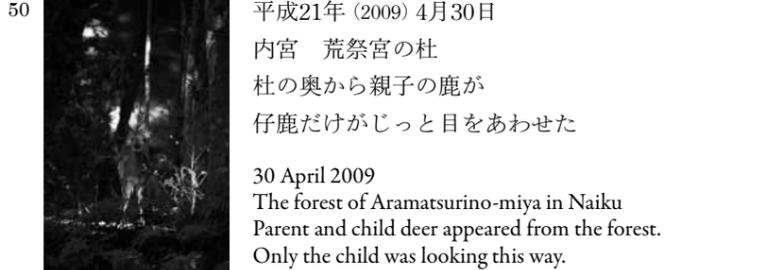


46 平成21年(2009)4月30日
 内宮神苑 春季神楽祭
 演目は胡蝶。背景の山は鼓ヶ岳
 30 April 2009
 The garden of Naiku
 Kagura (sacred dance) offering in spring.
 The dance is titled as "Kocho". The background is Mt. Tsumigatake.



47 平成21年(2009)4月30日
 内宮神苑 春季神楽祭
 演目は蘭陵王
 30 April 2009
 The garden of Naiku
 Kagura (sacred dance) offering in spring. The dance is titled as "Ranryo'o"
 48 平成20年(2008)5月3日
 内宮 御手洗場(五十鈴川)
 五十鈴川のほとり、参拝に際して手を洗い、口を漱ぐ
 3 May 2008
 Mitarashi, the riverside purification site in Naiku (the Isuzu River)
 Visitors purify themselves by washing their hands and rinsing their mouths at the edge of the Isuzu River.

◎御手洗場
 現在の御手洗場は、元禄5年(1692)に5代將軍徳川綱吉の生母桂昌院の働きにより整備された。江戸中期の外宮権禰宜度会(喜早)清在が採録した『毎事問』に「岸ニ石ヲ畳テ手水場ヲ改メ造リタル」と記されている。



50 平成21年(2009)4月30日
 内宮 荒祭宮の杜
 杜の奥から親子の鹿が仔鹿だけがじっと目をあわせた
 30 April 2009
 The forest of Aramatsurino-miya in Naiku
 Parent and child deer appeared from the forest. Only the child was looking this way.
 51 平成21年(2009)4月30日
 内宮
 正殿の千木が西日の空にシルエットとなる
 30 April 2009
 Naiku
 The roof of the sanctuary rises in silhouette against the western sky.



52 平成20年(2008)4月25日
 外宮 正殿
 正殿の屋根
 背景はクスの新緑とスギ
 25 April 2008
 The sanctuary of Geku
 The roof of the sanctuary is surrounded by verdurous camphor trees and cedars.
 55 平成20年(2008)5月4日
 宮域林にて
 五十鈴川上流(神路川)
 フジの花、堅果類の花が盛りと咲き誇る
 4 May 2008
 In the sacred forest along the upper Isuzu River (the Kamiji River)
 Wisterias and nuts trees are in full bloom.

かんみそほうしよくはじめさい
神御衣奉織始祭 Kanmiso-hoshoku-hajime-sai
 神御衣祭に奉る和妙(絹布)は神服織機殿神社、荒妙(麻布)は神麻続機殿神社のそれぞれの八尋殿において奉織される。まず奉織始祭を執り行い、清く美しく織り上がるように祈りをささげ、地元有志の奉仕によって織り上がると鎮謝のお祭りを行う。



56 平成21年(2009)5月1日
 神服織機殿神社 八尋殿
 八尋殿の柱。奉織始祭の朝に
 1 May 2009
 Yahiro-den in Kanhatorihatadono-jinja
 The pillars of Yahiro-den in the morning of a ritual to start weaving divine clothes.
 58 平成21年(2009)5月1日
 神服織機殿神社の杜
 杜のなかに神服織機殿神社が鎮座する
 1 May 2009
 The forest of Kanhatorihatadono-jinja
 The kami of weaving is enshrined in the forest.



59 平成21年(2009)5月1日
 神服織機殿神社 八尋殿
 ここで和妙(絹布)が織られる
 1 May 2009
 Yahiro-den in Kanhatorihatadono-jinja
 Silk textile is woven in this shrine.
 60 平成21年(2009)5月1日
 神服織機殿神社
 修祓の後、神御衣奉織始祭に向かう
 1 May 2009
 Kanhatorihatadono-jinja
 After purification, priests proceed to a ritual to start weaving divine clothes.



61 平成19年(2007)5月3日
 神服織機殿神社 八尋殿
 和妙は女性が奉織する
 3 May 2007
 Yahiro-den in Kanhatorihatadono-jinja
 Women serve to weave silk textiles.
 62 平成19年(2007)5月3日
 神服織機殿神社 八尋殿
 絹の糸繰り
 3 May 2007
 Yahiro-den in Kanhatorihatadono-jinja
 Thread reeling
 63 平成19年(2007)5月3日
 神麻続機殿神社 八尋殿
 荒妙(麻布)の奉織。荒妙は男性が織る
 3 May 2007
 Yahiro-den in Kan'omihatadono-jinja
 Men serve to weave hemp textiles.



64 平成19年(2007)5月3日
 神服織機殿神社 八尋殿
 絹の糸繰り
 3 May 2007
 Yahiro-den in Kanhatorihatadono-jinja
 Silk thread reeling



65 平成19年(2007)5月13日
 神麻統機殿神社
 神御衣奉織鎮謝祭
 神前に供えられた荒妙(麻布)
 13 May 2007
 Kan'omihatadono-jinja
 At the occasion of a ritual to show appreciation to a kami for successful weaving of textiles. Hemp textiles are offered to the kami.

●機殿の歴史

神服織機殿神社・神麻統機殿神社は旧多気郡に属し、古来紡績業と最も密接な関係を有した。伊勢の麻績君の名は古く、養老4年(720)編纂の『日本書紀』第10代崇神天皇の条に見え、『和名類聚抄』の郡郷に多気郡麻統郷があった。『延喜神名式』(927年撰進。『延喜式』巻9・10の神名式)に同郡麻統神社・服部伊刀麻神社・服部麻刀方神社を載せる。

麻績氏(麻統の表記も古くから使われていた)の出自は極めて古く、『古語拾遺』の「皇大神天岩戸に隠れましし条」に八百万神等相議り、伊勢の国の麻績の祖長白羽神をして、麻を植えて青和幣を作らしめ給った記事が見え、また『先代旧事本紀』の「天神本紀」には、天八坂彦命を以て伊勢の神麻統連の祖とし、『新撰姓氏録』の「右京神別」には神麻績連は天物知命の後と記し、『日本三代実録』貞観5年(863)の条には、伊勢多気郡に崇神天皇の皇子豊城入彦命の後なる麻統氏が居たことが記されている。

度会(西河原)行忠が弘安8年(1285)に撰んだ『伊勢二所太神宮神名秘書』並びに、鎌倉初期の編集とされる『神宮雜例集』によると、多気郡流田郷なる機殿は、古くは一殿であり、服織と麻統とが兼用していたが、天智天皇8年(669)に焼亡の後、これを二殿に分けた。しかしその距離は30丈(約90m)しかなく、同一地域に存在した。そして白河天皇の承暦3年(1079)宣旨により麻統機殿を同郡井手郷に移造されるに及び、両機殿は全く所在を異にすることとなった。

両機殿はもと20年に一度造替の制であったが、室町時代以降神宮の衰微に伴い、神御衣祭の中絶と共に殿舎が次第に荒廃し、殊に神麻統機殿において甚だしいものがあつた。やがて元禄12年(1699)に神御衣祭が再興されたものの、織立は行われず、須賀(菅・桂)糸・麻糸を以て代用したのであつた。次いで享保3年(1718)に津藩主藤堂氏が両機殿修理料各30石を寄進したことによって、漸く面目を一新した。同12年に至って、八尋殿以下が再興された。爾来明治維新に至るまで津藩が修造を行った。

明治4年(1871)以後、暫く地方庁が奉仕していたが、後に神宮の管轄となった。

●紡績具

古来朝廷から神宮に奉献される神宝は二種類あつた。一つは20年に一度の式年遷宮で新調される神宝で、もう一つは天皇即位後、大神宝使を差遣して奉られた「一代一度の大神宝」であつた。文献上品目の典拠として最初に見られるのは、養老令の官撰注釈書である『令義解』で、その神祇令即位条に「金の水桶、金の線柱」とあり、一代一度の大神宝の初見記事として知られるが、最初に紡績具が登場しているのは興味深いことである。

また『延喜大神宮式』(『延喜式』巻4の伊勢大神宮式)では、神宝21種の最初に紡績具が登載(『皇太神宮儀式帳』でも同様)されている。記紀神話においても天照大御神が新嘗祭に奉られる神御衣を織られる機屋のシーンが出てくるが、古代社会において紡績具が日常生活に欠かせない物でいかに重用されていたかが窺い知れる。

かんみそさい
神御衣祭 Kanmiso-sai
 皇大神宮と別宮荒祭宮の大御前に神服織機殿神社、神麻統機殿神社で古式のまに奉織された和妙と荒妙を、高天原の古事に因んで奉るお祭り。毎年5月と10月の14日に行われる。



66 平成25年(2013)10月14日
 内宮 荒祭宮 神御衣祭
 御衣を神前にお供えする
 14 October 2013
 Aramatsurino-miya in Naiku
 Kanmiso-sai, a ritual to offer clothing to deities



67 平成25年(2013)10月14日
 内宮 祓所
 神御衣祭
 御衣を修祓する

14 October 2013
 The site for purification rituals in Naiku
 On the occasion of Kanmiso-sai. Cloth offerings are purified.

●古代の神御衣奉織と神御衣祭

鎌倉時代中期に度会氏が編集したとされる『倭姫命世記』や『伊勢二所太神宮神名秘書』によれば、倭姫命が天照大御神を奉戴して巡行の途次、飯野高宮に坐しし時、機殿を建てて大御神の御衣を織らしめたのが当地における神御衣奉織の起源と考えられる。

神御衣祭は皇大神宮と荒祭宮に和妙(絹)と荒妙(麻)を奉納する祭祀であり、大宝・養老両度に編纂された古代の行政法・民法である令に、「神菅」と「神衣」は国家の常祀として掲げられていた。奈良時代以前から神嘗祭同様神御衣祭も国家の大祭として重んじられていたことが窺い知れる。『令義解』に、神服部が三河の赤引糸(清らかで艶のある糸)で、麻績連が麻糸で神御衣を織り上げたことが記されている。『皇太神宮儀式帳』には、6月月次祭に度会郡が赤引生糸40斤を調進した記事がみられるので、神御衣祭には最上の生糸を用いるため、古代には近場ではなく、わざわざ遠方の三河から献上されていたのであろう。

『神宮雜例集』が引く嘉応2年(1170)9月29日の神服部の注進文には、高天原にて神服部等の遠祖天御杵命、織姫の祖八千々姫命が神御衣奉織に勤仕してから神服織機殿において和妙の奉織が連綿として受け継がれていることが述べられている。また令の私撰の注釈書『令義解』によれば、孟夏(4月)の祭には朝廷から五位以上の高位の幣帛使が差遣されるとあり、神御衣祭は元来神嘗祭よりも重儀であったとする学説もみられる。さらに式年遷宮立制以前のはるか昔に斎行されていた祭祀にはほかならないので、正殿を20年に一度新築することのない時代の、神座の奉飾、すなわち後世呼ぶところの御装束に相当するのではないかと一見解もある。現行祭祀においても神御衣祭が神宮の大祭とされる所以がここに理解できる。



68 平成20年(2008)5月4日
 宮域林(五十鈴川水源。剣峠付近から)
 照葉樹の新緑、堅果類の花、ヒノキの深緑がみどりの綾をなす

4 May 2008
 The sacred forest (near the source of the Isuzu River, a perspective from the Tsurugi peak)
 Green leaves of various trees weave a twill pattern.

しんでんおたうえはじめ
神田御田植初 Shinden-otaue-hajime
 神嘗祭をはじめ諸祭典にお供えする御料米の早苗を植える御田植式が伊勢市楠部町の神宮神田御田植祭保存会の奉仕により古式ゆかしく行われる。



70 平成19年(2007)5月12日
 神宮神田
 神田御田植初。苗を捧げ持つ作長

12 May 2007
 The sacred rice field
 The ritual to start rice planting.
 A farmer representative holds a sheaf of rice seedlings.



71 平成19年(2007)5月12日
 神宮神田
 神田御田植初。御田植を始めるにあたり神田に行く

12 May 2007
 The sacred rice field
 The ritual to start rice planting. Priests and farmers proceeds to the rice field.



72 平成16年(2004)5月8日
 神宮神田
 神田御田植初
 張られた水に早乙女の姿が映る

8 May 2004
 The sacred rice field
 The ritual to start rice planting.
 Silhouettes of female farmers reflect on rice field.